

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2694000205		
法人名	株式会社タフティサポート		
事業所名	グループホーム すいーと嵐山 (2階)		
所在地	京都府京都市西京区嵐山内田町25-4		
自己評価作成日	令和2年11月29日	評価結果市町村受理日	令和3年3月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaiyokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2694000205-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 あい・ライフサポートシステムズ
所在地	京都府京都市北区紫野上門前町21
訪問調査日	令和2年12月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

すいーと嵐山では、会社理念にあります【私たちは、利用者様やそのご家族様に愛され信頼されるケアをします。】と【地域で1番と呼ばれるケアを目指し努力と研鑽に努めます。】を強く意識し、皆様に日々の生活を安全、安心に、そして楽しく過ごして頂けるように取り組んでいます。まだまだ至らない点も多々あるかと思えます。まずは、毎日のお食事で皆様に笑顔になって頂けるように工夫をしています。食べることは生きることでありますので、見て、食べて美味しい食事が提供できるように日々、試行錯誤しています。また、その方、そのご家族が望む生活が実現できるように、多職種連携を図り、最期の時まで安心して生活をして頂けるような施設を目指しています。今後、地域との連携も図れるように取り組み、地域に根差した事業運営ができるように取り組んでいきたいです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

風光明媚な観光地の風景や神社がある地域に位置する、1階には小規模多機能を併設した事業所です。事業所の前道は交通量が多いですが、事業所周囲は散歩ができるようなスペースとなっています。コロナ感染予防対策により外出できない状況ではありますが、日常的に外気浴ができるようになっています。毎日提供される食事には特に力を入れており、見た目も良く食べてもおいしい、入居者に喜んでいただける食事の提供に努めています。また毎週日曜日は各ユニットで入居者と一緒に食事作りが行われ、入居者の役割として、野菜の皮をむいたり切ったりするなど、入居者の楽しみの一つとなっています。管理者は若く着任間もないですが、職員との良好な関係性を構築しようと積極的に話しかけるなど事業所全体としてケアの質の向上に向けて取り組みを行っていることが職員ヒアリングからも窺えました。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらい <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらい <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらい <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらい <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらい <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらい <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果(2階)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の朝礼時に会社理念の唱和を行っています。また、毎月の会議や委員会活動でも理念に基づいて意見を交換し、活動の実施をしています。	事務所には会社理念が掲げられ、管理者・看護師・介護支援専門員・夜勤職員の参加する毎日の朝礼で唱和しています。また理念に基づいてケアの質の向上や、自己研鑽につなげられるよう、毎月行われる事業所全体会議で話し合う機会を設けています。	会社理念は掲示・唱和されていますが、地域に根差した事業所を目指すためにも、事業所独自の理念を作成されてはいかがでしょうか。またユニットごとで目標を決め、ユニット職員がチームとして目標に向けてケアの質の向上に努められることを期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウイルス感染症の影響もあり地域との交流は少ないが、地域の方にもっと知って頂けるように、活動していきたいと思えます。	地域の方より地域祭りへの誘いはありましたが、今年はコロナ禍により中止となっています。事業所としては、町内会へ加入しており、回覧板等により地域の情報を把握しています。	事業所広報誌「らんざん」を毎月発行していることから、地域の交番等へ持参したり、町内会の回覧板で回してもらったりするなど、地域の方々に事業所を知っていただく機会としてはいかがでしょうか。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	活かすことができていないと感じる。地域のイベントや学校等にも伝えていければと考えています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族様、ご関係者様、地域の役員の皆様から意見を頂戴し、今後の活動に活かせるようにしています。	運営推進会議はコロナ感染予防対策により、それまで参加していた地域包括職員・民生委員・町内会長・家族が参加できない状況になっています。職員のみでの開催となるため、運営推進会議の事前アンケートを配布し、会議での意見等を事前に把握できるようにしています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	徐々に取り組んでいきたいと思えます。	運営推進会議議事録は管理者が直接行政へ手渡ししています。また地域包括主催の研修(医療ケア・コロナ感染予防対策)等にはできる限り参加し、他事業所とも交流できる機会としています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する研修を、入社時と社内研修でも定期的に行っています。委員会活動も毎月実施し、身体拘束にあたるような事例等が発生していないか検証しています。	「虐待防止・身体拘束廃止委員会」が月1回開催されています。身体拘束・虐待についての研修は管理者が中心となって行われていることが研修参加報告書により確認できました。また参加できない職員へは研修資料の配布を行い自己学習により振り返りができるようにしています。	身体拘束・虐待についての研修が年1回のみ開催となっています。法定研修として年2回以上の開催が求められることから、年間研修計画を見直されてはいかがでしょうか。また介護職員にとって基本となる介護マニュアルは、各ユニットに保管し、すぐに確認できるような環境を整えられることをお勧めします。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止に関する研修を、入社時と社内研修でも定期的に行っています。委員会活動も毎月実施し、身体拘束にあたるような事例等が発生していないか検証しています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年間の研修に取り入れ実施している。社内研修でも扱われており、学ぶ機会を持てるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時はご家族と話をさせて頂く時間をとり、不安や疑問点については十分に説明をさせて頂くように行っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議でのアンケートや電話での質問にも対応しています。事業所内で意見を記入できる用紙も準備させて頂いております。	運営推進会議の事前アンケートにより家族からの意見が把握できるようになっています。また電話でも意見や要望を随時聴き取り、対応するようにしています。収集された意見等については、全体会議で話し合い、対応策を検討しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の業務での相談や提案事項も常に聞く姿勢を持っています。会議や委員会でも意見が出しやすい雰囲気づくりを意識しています。	職員一人ひとりが目標を立て、半年に1度リーダーや管理者による面談を実施し、目標の進捗確認を行っています。また毎月開催される全体会議・フロア会議では意見を出しやすい環境となっています。さらに新人職員には1週間・2週間・1ヶ月・3ヶ月・6ヶ月と配属ユニット以外の職員によるヒアリングを行い、アドバイスができる機会として、メンター制度も取り入れています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が個々に立てた目標に沿って日々の業務に取り組んでもらい客観的に職員の努力を評価している。やりたい事が実現できるようにサポートをしています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修は年間400時間開催されている。また、外部の研修も希望があれば費用を負担しています。資格取得費も会社が補助する事ができます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型事業所協議会への加入をし交流が図れるようにしています。他事業所にも職員を連れて見学をさせて頂くようにしています。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人様が望む生活の実現のためには聞く力がようになってきますので初期の関係作りが1番大切であり職員も意識するようにしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人様、家族様の希望に乖離がないかも確認しながら、お互いが安心して生活できるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要であるサービスを提案しながら本人様、家族様が納得できるものを提供させて頂くように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員がご入居者様から教わる事の方がたくさんあり、暮らしを共にさせて頂いております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様からの意見や昔の暮らしを聞きながら、本人様と家族様との関係が変わらず継続できるよう努力しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	住んでいた地域に出かけたり、友人の方が来て下さることもある。出来るかぎりこれまでの関係が継続できるようにお手伝いをさせて頂いております。	以前は、外出や友人の面会などの機会もありましたが、現在コロナ禍により面会・外出できない状況となっています。そのため事業所と家族がSNSで繋がりを、テレビ電話ができるよう環境を整えています。また月1回、居室担当職員により写真や手紙を家族へお送りしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一緒に取り組む事に抵抗のある方もいらっしゃると思いますが、週に1回は皆様に料理をして、個々にできる事を分担して支えあえる関係作りに努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	困ったことがあれば、いつでも相談下さいとお伝えしています。別の場所に移られた方は、時折、様子を確かませて頂くお電話をするようにしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その方が望むことを、最大限の安全に配慮して対応させていただきます。利用開始時、体調の変化時には本人様と家族様から意向や希望の確認をするようにしています。	入居時や体調変化時には、意向確認書により入居者・家族の意向を把握し、介護計画を立案しています。また日常生活の中から思いや意向を把握しています。現在、家族とは直接会って確認ができないため電話での聴き取りとなっています。	入居者の思いや意向の把握は、日々何気ない会話により把握されていますが、入居者一人ひとりの思いに気づき、情報をまとめられる書式の活用はありませんでした。ケース記録への記載や、「センター方式C-1-2の書式」の活用など、情報の整理・追加を行い、実効性のある情報にまとめられてはいかがでしょうか。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまで本人様に関わってこられた方からこれまでの様子や生活歴等を確認し、今後のサービスに活かせるようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人様の日々のご様子をよく観察し、できる事を継続して行って頂けるようにしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のフロア会議で個々の課題について整理しより良いケアが提供できるように努めています。ご家族様からも意見を頂き、反映できるようにしています。	月1回行われるフロア会議により入居者一人ひとりの状態把握に努めています。モニタリングは毎月行われ、介護計画は6ヶ月ごとに見直されています。介護計画については、入居者・家族の意向を計画作成担当者により聴取され、反映しています。	介護計画は「ニーズ」や「サービス内容」に優先順位をつけて採番することで、職員も見やすくなると思われます。また介護記録には「サービス内容」の番号を記載することでモニタリングがしやすくなると思われます。さらに介護計画は入居者・家族のみではなく専門職として主治医・看護師・訪問マッサージ・歯科衛生士等、多職種からも意見の確認をされることが望まれます。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のご様子を観察し、変化があればフロアで共有するように意識している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要とされることについて、掘り下げ柔軟に対応できるように取り組む事を意識しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人様の持つ力を十分に発揮して頂けるように、生活に楽しみを持って暮らして頂けるようにご支援をさせて頂いております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人様、家族様の意向に沿って、適切な医療が受けれるようにしています。	かかりつけ医(専門医)への受診が可能であることを契約時に説明し、家族協力のもと受診されています。受診時には、主治医へ伝えてほしい情報を職員が手紙でお知らせするようにしています。往診は、2箇所の協力病院より2週間に一度来ていただき処方内容に変更があれば、家族へ担当職員が都度電話で報告しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	グループホームに看護師の配置はありませんが、小規模多機能型居宅介護の看護師が体調の変化があった時には様子を確認し適切な指示を出しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病棟看護師やSWと連携を取りながら退院後、また安心して生活できるように対応等の検討を適宜行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	体調の変化があった際には、必ず医師や計画作成担当者、管理者、家族で話し合いながら、今後の支援について検討をしています。	入居契約時、「重度化した場合の対応に係る指針」の説明を行っています。また状態変化時には、都度面談ができる体制となっています。今年度は看取りケアを行い、1週間に一度往診医同席にて面談を実施し、状態説明を行い、家族の気持ちを確認しています。看取りの研修は年1回開催されていることが確認できました。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の研修も行っています。緊急での対応が必要になった場合こそ冷静に対応するように普段から意識して職員同士の連携を図っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な避難訓練を実施するようにしています。地域との協力体制はしっかりと築けていないので、今後活かしていきたいです。	年2回、消防訓練を行っており、そのうち1回は夜間想定となっています。今年度は風水害避難訓練も行っていることが報告書により確認できました。事業所としての備蓄食・水は1日分のみとなっていることから見直しに期待するところです。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入社時と定期的な研修を実施するようにしています。委員会や会議でも言葉かけには注意をするように意識しています。	事業所全体として、職員全員が言葉かけには意識するようにしています。日常業務の中で不適切な場面が見られれば、都度注意しあえる関係性となっています。今年度「プライバシーに関する研修」は行われていませんでした。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人様の意思を常に尊重し、支援させて頂くように意識しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お1人お1人の時間を大切に、職員都合の支援にならないように支援をさせて頂くようにしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時や入浴時には一緒に、今日の着る服を選んで頂き、その方が望む身だしなみをして頂くようにしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	見て美味しい、食べて美味しい食事であるように工夫するようにしています。それぞれの嚥下、咀嚼能力にあった食事が提供できるように支援しています。	献立は1ヶ月単位で決められていますが、行事などに合わせて変更しています。毎週日曜日は調理レク日となっており、ユニットごとで野菜を切ったり皮をむいたり、また食器を拭くなど入居者の参加により食事作りが楽しい時間となっています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	必要な量を摂取できるように、日々の様子を観察し、時間に囚われることなく個々のペースで摂って頂けるように意識しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎日の口腔ケアの実施、その方に必要な支援の実施を行っています。定期で歯科往診の活用もしています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立した生活が送れるように、出来る限りその方の能力を活かせるようにしています。定期での誘導等を実施しています。	「自分がオムツをしたらどう思うのか」ということを常に考えながら排泄介助を行っています。また「排泄はトイレで」ということを意識し、職員より声かけし、トイレでの排泄介助に取り組んでいます。さらに下剤に頼らない排便コントロールとして、食物繊維の多い食材を使用しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘に効く食材等を活用しながら、できるだけお薬に頼らず、自然な排便が促せるように支援をさせて頂くようにしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ある程度の日程は設定させて頂いているが、本人様の希望を優先し個々にあった支援ができるようにしています。月に1回は風呂の日を設け、ひのきや名湯のもとを使い楽しんで頂くようにしています。	毎月26日を「風呂の日」と設定し、ひのきチップや色々な温泉の素を使用し、旅行気分を感じていただけるような取り組みを行っています。入浴は週2回を基本とし、入浴できない日は入浴日の変更や全身清拭対応としています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	それぞれの生活リズムがあるので、昼夜逆転にならない程度で、安心して休んで頂けるように支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬情報を確認しながら、薬局の方にも薬の効果や副作用について、不明点があれば確認をするようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日の生活に役割を持って、送って頂けるように工夫していています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望があれば都度、対応させて頂いている。天候の良い日には、近隣の散歩やドライブにお連れさせて頂いています。	以前は近くのコンビニエンスストアでの買い物や、ドライブに出掛けるなどしていました。現在コロナ禍により外出できない状況ではありますが、玄関前で外の風に触れたり、花壇の花を見に行ったりしています。また事業所の周りを散歩することで気分転換にもなっています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の所持は法人として行っていない。必要な物があれば立替で行っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	定期的にご家族様にお手紙やお電話をさせて頂くようにしています。Lineを使ったビデオ通話も活用しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節にあった飾り付けや掲示をするようにしています。不快にならないように配慮することを意識し、常に改善ができるように定期的な施設巡回も行っています。	ユニットは明るく、壁には入居者と職員で制作した季節ごとの作品が飾られたり、レクリエーションの様子を撮った写真等も掲示されたりしています。家具の配置は、入居者の状態や行動に合わせて配置を変更するなど、入居者が過ごしやすい居心地良い空間となっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれの方が、思い思いの時間を過ごして頂けるようにご支援をさせて頂いています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用しておられた家具等の持ち込みを推奨させて頂いております。居室が本人様にとって安心して過ごす事のできる空間であるように支援しています。	入居事前面談時に管理者より、今まで使い慣れた馴染みの家具を持って来ていただけるよう説明がなされています。居室は程よいスペースで、家族の写真や手作りキルトが飾られており、入居者が安心して過ごせるようになっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全かつ自立した生活ができるような環境づくりを意識しています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2694000205		
法人名	株式会社タフティサポート		
事業所名	グループホーム すいーと嵐山 (3階)		
所在地	京都府京都市西京区嵐山内田町25-4		
自己評価作成日	令和2年11月29日	評価結果市町村受理日	令和3年3月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JiyosyoCd=2694000205-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 あい・ライフサポートシステムズ
所在地	京都府京都市北区紫野上門前町21
訪問調査日	令和2年12月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

すいーと嵐山では、会社理念にあります【私たちは、利用者様やそのご家族様に愛され信頼されるケアをします。】と【地域で1番と呼ばれるケアを目指し努力と研鑽に努めます。】を強く意識し、皆様に日々の生活を安全、安心に、そして楽しく過ごして頂けるように取り組んでいます。まだまだ至らない点多々あるかと思えます。まずは、毎日のお食事で皆様に笑顔になって頂けるように工夫をしています。食べることは生きることでありますので、見て、食べて美味しい食事が提供できるように日々、試行錯誤しています。また、その方、そのご家族が望む生活が実現できるように、多職種連携を図り、最期の時まで安心して生活をして頂けるような施設を目指しています。今後、地域との連携も図れるように取り組み、地域に根差した事業運営ができるように取り組んでいきたいです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

2階に同じ

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	項 目	取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない		<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果(3階)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の朝礼時に会社理念の唱和を行っています。また、毎月の会議や委員会活動でも理念に基づいて意見を交換し、活動の実施をしています。	2階に同じ	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウイルス感染症の影響もあり地域との交流は少ないが、地域の方にもっと知って頂けるように、活動していきたいと思っています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	活かすことができていないと感じる。地域のイベントや学校等にも伝えていければと考えています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族様、ご関係者様、地域の役員の皆様から意見を頂戴し、今後の活動に活かせるようにしています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	徐々に取り組んでいきたいと思っています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する研修を、入社時と社内研修でも定期的に行っています。委員会活動も毎月実施し、身体拘束にあたるような事例等が発生していないか検証しています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止に関する研修を、入社時と社内研修でも定期的に行っています。委員会活動も毎月実施し、身体拘束にあたるような事例等が発生していないか検証しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年間の研修に取り入れ実施している。社内研修でも扱われており、学ぶ機会を持てるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時はご家族と話をさせて頂く時間をとり、不安や疑問点については十分に説明をさせて頂くように行っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議でのアンケートや電話での質問にも対応しています。事業所内で意見を記入できる用紙も準備させて頂いております。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の業務での相談や提案事項も常に聞く姿勢を持っています。会議や委員会でも意見が出しやすい雰囲気づくりを意識しています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が個々に立てた目標に沿って日々の業務に取り組んでもらい客観的に職員の努力を評価している。やりたい事が実現できるようにサポートをしています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修は年間400時間開催されている。また、外部の研修も希望があれば費用を負担しています。資格取得費も会社が補助する事ができます。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型事業所協議会への加入をし交流が図れるようにしています。他事業所にも職員を連れて見学をさせて頂くようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人様が望む生活の実現のためには聞く力が必要になってきますので初期の関係作りが一番大切であり職員も意識するようにしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人様、家族様の希望に乖離がないかも確認しながら、お互いが安心して生活できるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要であるサービスを提案しながら本人様、家族様が納得できるものを提供させて頂くように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員がご入居者様から教わる事の方がたくさんあり、暮らしを共にさせて頂いております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様からの意見や昔の暮らしを聞きながら、本人様と家族様との関係が変わらず継続できるよう努力しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	住んでいた地域に出かけたり、友人の方が来て下さることもある。出来るかぎりこれまでの関係が継続できるようにお手伝いをさせて頂いております。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一緒に取り組む事に抵抗のある方もいらっしゃいますが、週に1回は皆様で料理をして、個々にできる事を分担して支えあえる関係作りに努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	困ったことがあれば、いつでも相談下さいとお伝えしています。別の場所に移られた方は、時折、様子を確保させて頂くお電話をするようにしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その方が望むことを、最大限の安全に配慮して対応させていただきます。利用開始時、体調の変化時には本人様と家族様から意向や希望の確認をするようにしています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまで本人様に関わってこられた方からこれまでの様子や生活歴等を確認し、今後のサービスに活かせるようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人様の日々のご様子をよく観察しできる事を継続して行って頂けるようにしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のフロア会議で個々の課題について整理しより良いケアが提供できるように努めています。ご家族様からも意見を頂き、反映できるようにしています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のご様子を観察し、変化があればフロアで共有するように意識している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要とされることについて、掘り下げ柔軟に対応できるように取り組む事を意識しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人様の持つ力を十分に発揮して頂けるように、生活に楽しみを持って暮らして頂けるようにご支援をさせて頂いております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人様、家族様の意向に沿って、適切な医療が受けれるようにしています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	グループホームに看護師の配置はありませんが、小規模多機能型居宅介護の看護師が体調の変化があった時には様子を確認し適切な指示を出しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病棟看護師やSWと連携を取りながら退院後、また安心して生活できるように対応等の検討を適宜行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	体調の変化があった際には、必ず医師や計画作成担当者、管理者、家族で話し合いながら、今後の支援について検討をしています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の研修も行っています。緊急での対応が必要になった場合こそ冷静に対応するように普段から意識して職員同士の連携を図っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な避難訓練を実施するようにしています。地域との協力体制はしっかりと築けていないので、今後活かしていきたいです。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入社時と定期的な研修を実施するようにしています。委員会や会議でも言葉かけには注意をするように意識しています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人様の意思を常に尊重し、支援させて頂くように意識しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お1人お1人の時間を大切に、職員都合の支援にならないように支援をさせて頂くようにしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時や入浴時には一緒に、今日の着る服を選んで頂き、その方が望む身だしなみをして頂くようにしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	見て美味しい、食べて美味しい食事であるように工夫するようにしています。それぞれの嚥下、咀嚼能力にあった食事が提供できるように支援しています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	必要な量を摂取できるように、日々の様子を観察し、時間に囚われることなく個々のペースで摂って頂けるように意識しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎日の口腔ケアの実施、その方に必要な支援の実施を行っています。定期で歯科往診の活用もを行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立した生活が送れるように、出来る限りその方の能力を活かせるようにしています。定期での誘導等を実施しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘に効く食材等を活用しながら、できるだけお薬に頼らず、自然な排便が促せるように支援をさせて頂くようにしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ある程度の日程は設定させて頂いているが、本人様の希望を優先し個々にあった支援ができるようにしています。月に1回は風呂の日を設け、ひのきや名湯のもとを使い楽しんで頂くようにしています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	それぞれの生活リズムがあるので、昼夜逆転にならない程度で、安心して休んで頂けるように支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬情報を確認しながら、薬局の方にも薬の効果や副作用について、不明点があれば確認をするようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日の生活に役割を持って、送って頂けるように工夫していています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望があれば都度、対応させて頂いている。天候の良い日には、近隣の散歩やドライブにお連れさせて頂いています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の所持は法人として行っていない。 必要な物があれば立替で行っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	定期的にご家族様にお手紙やお電話をさせて頂くようにしています。Lineを使ったビデオ通話も活用しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節にあった飾り付けや掲示をするようにしています。不快にならないように配慮することを意識し、常に改善ができるように定期的な施設巡回も行っています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれの方が、思い思いの時間を過ごして頂けるようにご支援をさせて頂いています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用しておられた家具等の持ち込みを推奨させて頂いております。居室が本人様にとって安心して過ごす事のできる空間であるように支援しています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全かつ自立した生活ができるような環境づくりを意識しています。		